

「明治大学 現代マンガ図書館 所蔵マンガ本目録データ作成・装備・配架事業」 学校法人明治大学

概要／課題

現代マンガ図書館は、明治大学において複合運用される米沢嘉博記念図書館の14万冊と合わせて、国内最大級の蔵書数をもつマンガ専門の図書館です。設立者の故・内記稔夫氏より寄贈を受けた時点では、目録は紙の台帳で管理されていましたが、2010年より27万冊の目録の「データベース化」に取り組み、これまでに20万冊の目録作成を実施しました。従来は、作家、作品、レーベル毎に配架された資料への作業だったのですが、残り7万冊は購入時のまま「未配架」であった資料が対象となります。場所も要員も限られた中で、いかに効率的に目録を作成し、合理的な「配架」を実現するかが課題となりました。

体制／手法

本年度の作業対象は、約1万冊超の現代マンガ図書館の未登録資料の目録データ作成と、その約1万冊に目録データ作成済の1万冊を加えた約2万冊の未整理資料の装備・配架作業になります。その手法として、従来、目視手入力だったものを新しい手法として、ISBNを使いメディア芸術データベース(MADB)より書誌データを取得することを計画しました。MADB WebAPI が公開され、インターネットを通して資料関連情報を取得できるようになったことを利用し、データを取得、取得したデータを使って、配架用データを作成し、専門業者により、限られた作業場所での大規模(約2万冊)の配架を試行しました。

また、書誌データ作成の課題と成果、配架計画の作成、配架作業における課題を整理、実施ノウハウをドキュメント化し、WEBで公開することにより、同じ問題に向き合う他館の参考にさせていただこうと考えました。

成果

MADBからのインターネットでのデータ取得により、約1万冊の目録データを作成。明治大学学術成果リポジトリ及び、現代マンガ図書館蔵書検索システムに保存、インターネットで公開されている当館の蔵書検索での閲覧を可能としました。また、その1万冊を含む未整理資料約2万冊を装備・配架し、閉架式での出納・閲覧を可能としました。それら大規模な作業を限られた作業場所で、配架収納しました。

日本のマンガ文化は大きな転換期にあります。「雑誌での作家育成→単行本での作品化」という流れに、インターネットを使った様々な試みが行われるようになってきました。その中であって現代マンガ図書館の蔵書は、雑誌と単行本、その評論といった「書籍」を通して積み上げられてきた日本のマンガ文化の歴史と現在の全体像を反映する「書籍コレクション」となります。その全容がアーカイブ化され、検索・閲覧が可能となることの意義は大きいと考えます。また、その大規模な資料の整理方法を共有化できれば、日本各地に設立されてきたマンガ関連施設への貢献、ひいては、日本のマンガ文化研究基盤の強化にもつながるものと確信します。

今後の課題

残る未整理資料約 6 万冊の整理を完遂し、MADB を活用した他館書誌データとの連携を検討していければと考えます。

以 上